

プログラム 講演時間等が予告なく変更になる場合があります

国際シンポジウム
地方創生に
求められるもの

13:00	開会 主催者挨拶 (公財)日本生態系協会理事 八千草薫 来賓挨拶 環境省自然環境局長 奥主喜美氏 国土交通省水管理・国土保全局長 金尾健司氏
13:15	趣旨説明 (公財)日本生態系協会会長 池谷奉文
13:30	特別講演 逐次通訳あり 韓国順天(スンチョン)市長 趙忠勳(チョ・チュンファン)氏 『順天湾と順天湾国家庭園 効率的な保全と持続可能な発展による創造経済効果』
14:30	休憩
14:50	1)挨拶 地方創生担当・内閣府特命担当大臣 石破茂氏(予定)
14:55	自治体からの報告 第1部 鹿児島県出水市市長 渋谷俊彦氏 『ツルが選んだまち 出水市の取組』 山口県周南市市長 木村健一郎氏 『周南のナベツル ツルと「共に」生きる里の挑戦』 新潟県佐渡市市長 甲斐元也氏 『離島佐渡の挑戦 歴史と文化が薫り 自然と人が共生できる美しい島』 島根県出雲市市長 長岡秀人氏 『人と自然が共に生きる、大型水鳥類をシンボルとした地域づくり』 宮城県大崎市市長 伊藤康志氏 『渡り鳥との共生を核とした持続可能な地域づくり』
16:35	休憩
16:50	自治体からの報告 第2部 兵庫県豊岡市市長 中貝宗治氏 『コウノトリと共に生きる 豊岡の挑戦』 栃木県小山市市長 大久保寿夫氏 『コウノトリが飛来し、ホンモロコが育む 渡良瀬の未来』 徳島県知事 飯泉嘉門氏 『コウノトリが運ぶ農業の未来 お接待文化が息づく徳島の取組み』
17:50	総括 東京都市大学 教授 涌井史郎氏
18:15	閉会

懇親会 18:30-20:00 同階ROOCCにて 会費(四千円)はシンポジウム受付にてお支払ください。

公益財団法人
日本生態系協会

171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル
電話 03-5951-0244 ファクス 03-5951-2974 ホームページ www.ecosys.or.jp

(公財)日本生態系協会は、持続可能な社会を目指し、自然と共存する、美しく、心豊かなくにづくり、まちづくりを進めるために活動するシンクタンクです。アメリカおよびヨーロッパ地域事務所などを通じて、世界各国・地域の行政や研究機関、NGO などと交流し、海外の先進事例などの情報を収集・分析し、それを基に、自然や伝統文化など、各地の魅力を活かした地域づくりの提案などの活動を展開しています。『美しいくにをつくる新知識 ー持続可能なまちづくりハンドブック』(ぎょうせい)、『環境アセスメントはヘップ(HEP)でいきる』(ぎょうせい)、『にほんのいきもの暦』(アノニマスタジオ)など、書籍の出版のほか、会報「エコシステム」を隔月で発行しています。そのほか、ビオトープ管理士・こども環境管理士の認証、ハビタット評価(JHEP)の認証などを行っています。

(公財)日本生態系協会 会長 池谷奉文

「このままでは、近い将来地方自治体の約半数が消滅するかもしれない」
深刻化する地方の衰退に歯止めをかけるため、
独自性のある『地方創生』が今求められています。
人類の生存基盤である生態系を再生することで、
世界にひとつしかない地域の魅力を引き出し、観光や農業など、
地域経済の活性化に取り組み自治体づくりが世界で始まっています。
こうした取り組みは、当協会が全国で進める生態系ネットワークが礎となり、
地域のきずなやつながりを深め、地域経済を振興する大きな原動力となっています。
『地方創生』は、環境、社会、経済のバランスを維持することで達成でき、
その鍵となるのが、象徴としての大型水鳥類をはじめとした
地域独特の野生動植物や美しい自然・文化です。
本シンポジウムでは、自然と伝統が共存する持続可能な自治体づくりをテーマに、
新しい時代にふさわしい『地方創生』のあり方を提案します。

―主催―(公財)日本生態系協会

―後援―内閣府、総務省、環境省、国土交通省、農林水産省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、
(公社)日本都市計画学会、(公社)土木学会、自治体学会、(公社)日本ナショナル・トラスト協会、
日本ビオトープ管理士会

「表紙写真」ナベヅルなどの大型水鳥類が暮らす自然豊かな韓国・順天湾の風景。
世界5大沿岸湿地のひとつと称され、ラムサール条約湿地でもある。
生きものに配慮した農法を実践する300ヘクタールの農地でとれたブランド米が高値で売れている。

国際シンポジウム

Symposium on Regional Revitalization

地方創生に

地域と世界を結ぶ

求められるもの

2015年11月20日(金) 13:00-18:15 イイノホール



公益財団法人

日本生態系協会

順天市 市長 趙忠勳氏

順天市出身。中央大学校大学院行政学科にて修士課程修了。2002年7月第4代順天市長に就任。2006年6月まで務める。2012年4月に再任。現在2期目。市民が幸福に暮らせる地域づくりのために、湿地生態系の保全、ならびに庭園都市、エネルギー自給自足都市の構築に向けた取り組みに力を注いでいる。2013年、庭園博覧会としては韓国初の順天湾国際庭園博覧会2013を開催、その目的を急速な都市の拡大から湿地生態系を守ることに定めた。

順天湾と順天湾国家庭園

効率的な保全と持続可能な発展による創造経済効果

順天湾は、22.6㎢の湿地と5.4㎢のヨシ原からなる沿岸湿地です。一年を通じて見られる約1,000羽のナベヅルをはじめ、10万羽の渡り鳥が湾の環境を利用しています。市では、都市化の抑制と順天湾の保全のために1,112㎢の公園を設置し、それを拠点に2013年順天湾国際庭園博覧会を開催。開催跡地が、今年9月5日国内初の国家庭園に指定されました。こうした取り組みが功を奏し、順天湾にはツル類や湿地の美しい景色などを目当てに、毎年300万人に及ぶ観光客が訪れ、1,000億ウォン（約100億円）に相当する波及効果を市の経済にもたらしています。

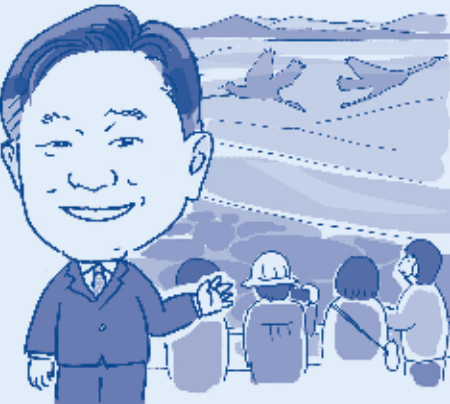
순천시 시장 조충훈씨

순천시 출신. 중앙 대학교 대학원 행정학과에서 석사과정 수료. 2002년 7월 제 4대 순천 시장으로 취임. 2006년 6월까지 맡는다. 2012년 4월에 재임. 현재 2기째. 시민이 행복하게 살 수 있는 지역 만들기를 위해서, 습지 생태계의 보전, 및 정원 도시, 에너지 자급 자족 도시의 구축을 향한 대처에 힘을 쏟고 있다. 2013년, 정원 박람회로서는 한국 첫 준텐만국제 정원 박람회 2013을 개최, 그 목적을 급속한 도시의 확대로부터 습지 생태계를 지키는 것에 정했다.

순천만과 순천만자연생태공원

효율적인 보전과 지속 가능한 발전에 의한 창조적 인 경제 효과

순천만은 22.6 km²의 습지와 5.4 km²의 요시원으로 부터 되는 연안 습지입니다. 일년을 통해서 볼 수 있는 약 1,000마리의 흑두루미를 시작해 10만 마리의 철새가 만의 환경을 이용하고 있습니다. 시에서는 도시화의 억제와 순천만의 보전을 위해서 1,112 km²의 공원을 설치해 그것을 거점으로 2013년 순천만 국제 정원 박람회를 개최. 개최 철거지가 올해 9월 5일 국내 최초의 국가 정원으로 지정되었습니다. 이러한 대처가 공을 세워, 순천만에는 두루미류나 습지의 아름다운 경치등을 목적에, 매년 300만명에 이르는 관광객이 방문해, 1,000억원(약 100억엔)에 상당하는 파급효과를 시의 경제에 가져오고 있습니다.



順天湾の沿岸湿地と農地

出水市 市長 渋谷俊彦氏

1967年東洋大学経済学部を卒業後、1968年4月より6年間代議士秘書として勤務。1982年から1995年まで、出水市議会議員を4期務める。その間、副議長、監査委員として活躍。1999年6月より旧出水市長として2期務め上げた後、2006年4月合併後の出水市長に就任。現在3期目を迎え、日々、市政発展のためにたゆまぬ努力を払っている。趣味は、読書と散歩。

ツルが選んだまち

出水市の取組

出水市には毎年10月下旬から3月にかけてツルが越冬のため渡来します。1947年には僅か275羽のツルが、豊かな自然と市民のツル保護に対する御理解・御協力により年々増加し、昨季は史上最高羽数の14,378羽、また18季連続で万羽ツルを記録しています。市の鳥「ツル」を活かした地方創生の取組について、各種イベント、特産品、農作物のブランド化を中心に紹介します。



薩摩藩の武家屋敷群

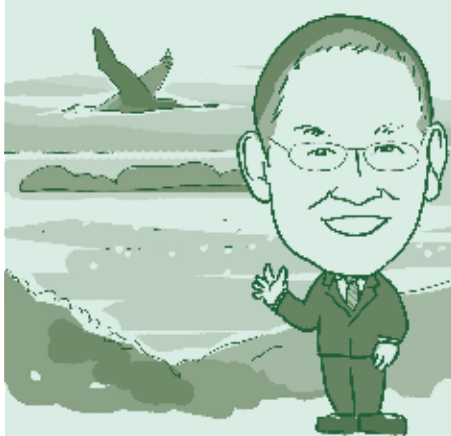
周南市 市長 木村健一郎氏

山口県周南市出身。早稲田大学法学部卒業後、1981年5月司法書士事務所開業。2003年4月山口県議会議員選挙に当選。2011年4月周南市長に当選し現職。現在2期目。趣味は読書、めだかの飼育、ネコと散歩。座右の銘は「和して同ぜず」。

周南のナベヅル

ツルと「共に」生きる里の挑戦

周南市八代地区は、全域が国の特別天然記念物に指定されているツルの里です。明治20(1887)年に全国に先駆け、法(山口県令)によりツルの捕獲が禁止されるなど、近代自然保護制度発祥の地といわれております。百年を超えて続くツル保護活動の紹介とともに、近年進められているツルの生息環境に配慮して作付された米のブランド化や、地域住民による地域活性化プランの作成など、ツルと「共に」歩む里の未来に向けた取り組みを紹介したいと思います。



大津島等、瀬戸内の島々

佐渡市 市長 甲斐元也氏

東京農業大学を卒業後、1970年新潟県庁入庁。佐渡農政事務所所長、下越農政事務所所長、地域農政推進課課長、糸魚川地域振興局局長などを歴任。2006年県庁退職。同年より2年間社団法人新潟県農林公社の理事長を務める。2008年7月佐渡市副市長に就任。2012年4月佐渡市長に就任、現在に至る。趣味は、風呂でリラックスすることと料理。

離島佐渡の挑戦

歴史と文化が薫り

自然と人が共生できる美しい島

佐渡市の地方創生は、「歴史と文化が薫り 自然と人が共生できる美しい島」を基本コンセプトに、短期的には第1次産業と観光の振興により若者の雇用の確保に努めながら、長期的には人材の育成により社会減を抑制し、活力ある離島佐渡を目指しています。生物多様性をテーマに生きものを育む農法等で生産した「朱鷺認証米」による佐渡産米の高付加価値化、世界農業遺産、世界文化遺産、世界ジオパークの認定を目指した多様な観光・交流、佐渡学等の推進による佐渡への愛着を持った将来の佐渡を担う子どもの育成に取り組んでいます。



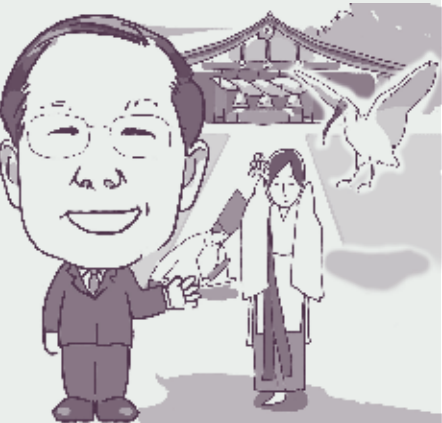
佐渡金銀山遺跡「道遊の割戸」

出雲市 市長 長岡秀人氏

岡山大学法文学部を卒業後、法務省法務教官を経て平田市職員となる。1999年7月に平田市助役、2003年4月に平田市長となる。2005年3月、市町合併により誕生した新「出雲市」で、市長職務代理者、助役、副市長を務め、2009年4月に市長就任。現在2期目。「げんき、やさしさ、しあわせあふれる 縁結びのまち 出雲」の実現を目指し日々取り組んでいる。趣味は、読書、囲碁、ゴルフ。

人と自然が共に生きる、大型水鳥類をシンボルとした地域づくり

ヤマタノオロチ
『八岐大蛇神話』の舞台となった斐伊川は、頻繁に氾濫を引き起こしてきましたが、現在、『平成のおろち退治』とも呼ばれる大規模な治水事業が行われています。下流には、国内有数の水鳥の飛来地で、ラムサール条約湿地でもある宍道湖、中海の2つの汽水湖があり、冬には多くのハクチョウやガン類の群が訪れます。また、出雲市は全国に4カ所しかないトキの分散飼育地に選ばれ、2011年から実績をあげています。さらに今年、国や県、宍道湖・中海沿岸の市などと大型水鳥類と共に生きる流域づくりの検討組織を設立し、豊かな水辺環境や生物多様性を活かした魅力的な地域づくりに取り組んでいます。



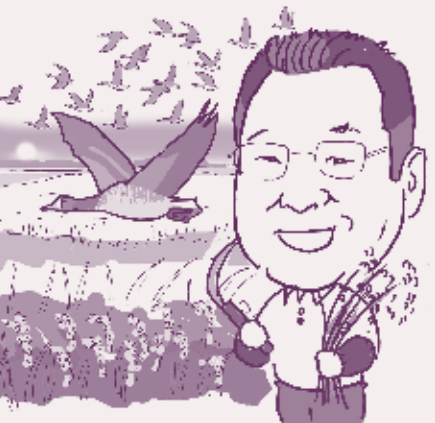
出雲大社

大崎市 市長 伊藤康志氏

1968年宮城県小牛田農林高等学校卒業。1987年4月宮城県議会議員に初当選。以後、5期連続でトップ当選。2005年7月第33代宮城県議会議長に就任。2006年5月大崎市の初代市長に就任。現在3期目。一般財団法人宮城県青年会館理事、宮城県バイアスロン連盟会長としても活躍中。趣味は温泉めぐり、小旅行。特技は相撲と柔道。座右の銘は「耕不尽」。著書に『東北発「豊かさ」探求』（笹氣出版）がある。

渡り鳥との共生を核とした持続可能な地域づくり

宮城県大崎市には2つのラムサール条約湿地があり、毎年10万羽を超えるマガンなどの水鳥が飛来する「渡り鳥の楽園」となっています。特に、登録名に「水田」の名を冠した世界初の条約湿地「蕪栗沼・周辺水田」における湿地環境と生物多様性の保全、渡り鳥と共生する農業、エコツーリズム等の取り組み、農業者、NPO、研究者、企業、行政など多様な主体の協働による豊かで美しい持続可能な地域づくりの取り組みについて紹介します。



蕪栗沼と美しい稲穂の波

豊岡市 市長 中貝宗治氏

京都大学法学部を卒業後、1978年に兵庫県庁に入庁。県職員時代の1987年に大阪大学大学院経済学研究科経営学専攻前期課程を修了。1990年兵庫県庁を退職し、翌1991年4月、兵庫県議会議員に当選、以後3期務める。2001年7月豊岡市長に就任。2005年5月に市町合併による新「豊岡市」の市長に就任。現在3期目。好きな言葉は、“夢はでっかく 根は深く”、“願うこと 願い続けること 投げ出さないこと”。

コウノトリと共に生きる豊岡の挑戦

2005年9月、コウノトリが再び豊岡の空に羽ばたきました。あれから10年、コウノトリ野生復帰の取り組みは、着実に確実に進んできました。今では、国内外でもコウノトリの放鳥がなされるまでになりました。一度野外で絶滅した動物を飼育下で繁殖させ、かつての生息地である人里に帰していくことは、世界にも例のない壮大なプロジェクトです。膨大なエネルギーとコストをかけて、それでも豊岡がコウノトリの野生復帰の取り組みを続けてきたのはなぜか…。豊岡は何を目指しているのか…。



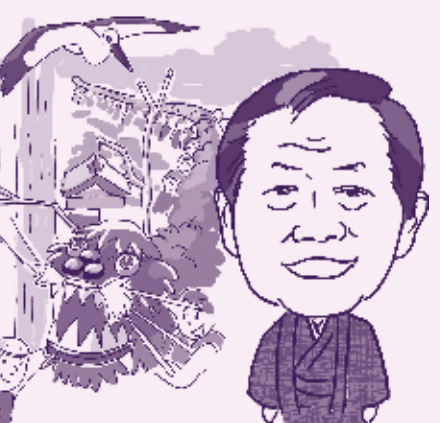
豊岡鞆と田園に立つコウノトリの巣塔

小山市 市長 大久保寿夫氏

1948年小山市寒川地区に生まれる。京都大学卒業後、東京大学大学院修士課程修了。1973年農林水産省入省、全国の農政業務に尽力。1986年外務省勤務。在中国日本国大使館一等書記官として3年間赴任。トキの橋渡し役を務め、自然の重要性を認識。1990年岡山県勤務。地方自治体の立場で行政職務を担当し、国営汚泥除去事業の創設に尽力。1997年農林水産省本省・室長、1999年関東農政局建設部次長を経て、2000年7月小山市長に就任。現在4期目。

コウノトリが飛来し、ホンモロコが育む 渡良瀬の未来

2012年世界のラムサール条約湿地に登録された渡良瀬遊水地は、総面積3,300haを有する我が国最大の遊水地であり、絶滅危惧種183種を育む自然の宝庫となっています。小山市はその「賢明な活用」として、「エコミュージアム化」、「コウノトリ・トキの野生復帰」、「環境にやさしい農業の推進」の3本柱を「地方創生」の目玉としてその実現に取り組んでいます。ふゆみずたんぼを活用した「米」や「ホンモロコ」の生産が順調な上、昨年、今年と2年連続でコウノトリも飛来し、「夢」に一步一步近づいていると喜んでいます。



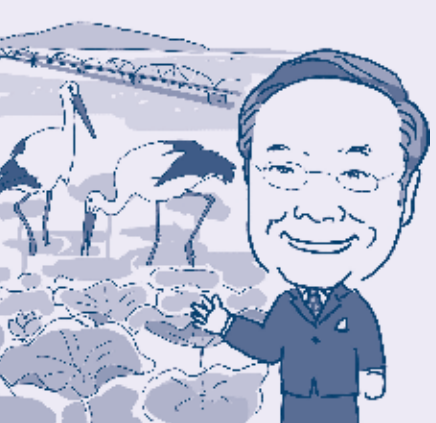
国選択無形民俗文化財「ジャガマイタ」

徳島県 知事 飯泉嘉門氏

東京大学法学部を卒業後、1984年4月自治省入省。その間、山梨県総務部財政課長、埼玉県企画財政部財政課長、郵政省通信政策局地域情報化プロジェクト推進室長、総務省自治税務局企画課税務企画官などを務める。2003年徳島県知事に就任、現在に至る。全国知事会地方創生対策本部副本部長や全国知事会総務常任委員会副委員長などとしても活躍中。趣味は柔道、弓道、ピアノ演奏。

コウノトリが運ぶ農業の未来 お接待文化が息づく徳島の取組み

「大鳴門橋・開通30周年」の記念の年に、兵庫県生まれのコウノトリが四国遍路のスタートの地（発心の道場）徳島県鳴門市のレンコン田に飛来し、「巣作り」を行っています。これは、餌となる多様な生物が生息することの証であり、「環境にやさしい農業」への取り組みの成果です。今後のコウノトリの定着に向けた「お接待作戦（「生物多様性」を育む環境づくり）」の展開と、豊かな自然が育む農産物の「高いブランド力」を「地方創生」の実現に繋げる取組みを紹介します。



眉山と吉野川

東京都市大学 教授 涌井史郎氏

神奈川県鎌倉市出身。造園家・ランドスケープアーキテクト。人と自然の空間的共存を図る造園技術をベースに、数多くの作品や農村・水源地域・地方都市の活性化計画などを手がける。岐阜県立森林文化アカデミー学長、名古屋環境大学・学長、愛知学院大学・特任教授、中部大学・東京農業大学客員教授。国連生物多様性の10年委員会委員長代理、(公社)国際観光施設協会副会長をはじめ、多くの役職を務める。「景観から見た日本の心（NHK出版）」「いなしの智恵～ 日本社会は「自然と寄り添い」発展する（ベスト新書）」など、著書多数。

